

「この人 17」

西をさむ(天為 所属) 65 歳 三重県

俳句を始めたのは七年ほど前です。

俳句雑誌をいろいろ見て天為にしたのですが・・・

三重県には天為に所属しているのは、二人しかいない。

主宰が東大の偉い先生なのはどうしたわけかと思ったんです。

会員の中に小林英昭という名がありました。

三重県の方。テレビの俳句王国でたびたび見る名前だ・・・

と思いましたね。

個人的に知ってるわけではないのに、知った名前の同県人ががいたから入会。

人間って可笑しいものですねえ。

俳句は平安の昔に逆もどりしているような気がします。

芭蕉がやったのはその当時の「現代を詠む」ことだったんですね。

身の回りのことを詠んで大衆化を目指したのです。

ところが・・・明治になって正岡子規以降のところで「新しい芽」が
摘まれてしまうんです。とても残念なことですね。

滑稽句の作り方ですか・・・

ごく普通のことを詠めばそれが可笑的。

普通のことの中に「可笑的」はいくらでもあります。

人間それ自体が可笑的存在なんですから。

それでは代表句を・・・

- ・魚は氷に人は俎上に登るかな
- ・紙切れを押し戴いて卒業す
- ・サングラス鼻の低さが玉に瑕
- ・何れの御時にか柩で三尺寝
- ・省略の極みの果の水着かな